

## 令和2年度 千葉大学 2次試験前期日程 (数学問題)

- 教育 (中学数学を除く)・国際教養・文 (行動科学)・法政経済・園芸学部 (食糧自然経済) は [1] ~ [3] (80分) 数I・II・A・B
- 教育学部 (中学数学) は [4] ~ [9] (150分) 数I・II・III・A・B
- 理 (物理・化学・生物・地球科学)・薬・工・園芸学部 (園芸, 応用生命, 緑地環境) [4] ~ [8] (120分) 数I・II・III・A・B
- 医学部 [6] ~ [8], [10], [11] (120分) 数I・II・III・A・B
- 理学部 (数学・情報数理) [4] ~ [8], [10] (180分) 数I・II・III・A・B

[1] Aさんは1が書かれたカードを1枚, 2が書かれたカードを2枚, 4が書かれたカードを1枚, 計4枚を無作為に横一列に並べて4桁の数 $X$ を作る. Bさんは2が書かれたカードを2枚, 3が書かれたカードを2枚, 計4枚を無作為に横一列に並べて4桁の数 $Y$ を作る.

(1)  $X$ が4の倍数となる確率を求めよ.

(2)  $X < Y$ となる確率を求めよ.

[2]  $k$ を定数とし,  $f(x) = x^3 - kx$ とおく. 曲線 $C: y = f(x)$ 上に原点と異なる点 $P(a, f(a))$ をとる. 点 $P$ を通り曲線 $C$ とちょうど2点を共有する2つの直線のうち, 傾きが大きい方を $l_1$ , 小さい方を $l_2$ とする. さらに,  $C$ と $l_1$ の共有点のうち $P$ と異なるものを $Q_1$ ,  $C$ と $l_2$ の共有点のうち $P$ と異なるものを $Q_2$ とする.  $l_1$ および $l_2$ の方程式と,  $Q_1$ および $Q_2$ の座標を求めよ.

[3] 座標平面上に4点 $P_0(2, 0)$ ,  $P_1(0, 2)$ ,  $Q_0(0, 0)$ ,  $Q_1(-1, 1)$ がある. 正の整数 $n$ に対し, 点 $P_n$ ,  $Q_n$ まで定まったとき, 点 $P_{n+1}$ ,  $Q_{n+1}$ を以下の条件で定める.

四角形 $P_nP_{n+1}Q_{n+1}Q_n$ と四角形 $P_{n-1}P_nQ_nQ_{n-1}$ は相似であり, かつ辺 $P_nQ_n$ のみを共有する.

このとき以下の問いに答えよ.

(1)  $P_2$ ,  $Q_2$ の座標を求めよ.

(2)  $P_4$ ,  $P_8$ の座標を求めよ.

(3) 正の整数 $m$ に対して,  $P_{8m}$ の座標を $m$ の式で表せ.

- 4  $t$  を実数とし、不等式

$$(x^2 - 2x + y^2)(x^2 - 3x + y^2) \leq 0, \quad t \leq x \leq t + 1$$

の表す  $xy$  平面上の領域を  $x$  軸の周りに 1 回転してできる立体の体積を  $V(t)$  とする.  $t$  が  $1 \leq t \leq 2$  の範囲を動くとき,  $V(t)$  の最大値を求めよ.

- 5 四面体  $ABCD$  において,  $AB^2 + CD^2 = BC^2 + AD^2 = AC^2 + BD^2$ ,  $\angle ADB = 90^\circ$  が成り立っている. 三角形  $ABC$  の重心を  $G$  とする.

(1)  $\angle BDC$  を求めよ.

(2)  $\frac{\sqrt{AB^2 + CD^2}}{DG}$  の値を求めよ.

- 6 袋の中に 1 から 5 までの整数が書かれたカードが 1 枚ずつ入っている. その中から 1 枚取り出して戻すという試行を繰り返す.  $n$  回目に取り出したカードに書かれた整数を  $a_n$  とし,  $S_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n$  とする.  $n$  回目に初めて  $S_n$  が 3 の倍数になる確率を  $p_n$  とする.

(1)  $p_2, p_3$  を求めよ.

(2)  $n \geq 2$  のとき,  $p_n$  を求めよ.

(3)  $n \geq 4$  とする.  $S_1, S_2, S_3$  が 3 の倍数でなく  $a_3 = 5$  であったとき,  $n$  回目に初めて  $S_n$  が 3 の倍数になる条件付き確率  $q_n$  を求めよ.

- 7  $a$  は 0 でない定数とする. 2 つの放物線  $y = x^2$  と  $x = \frac{1}{2a}y^2 + \frac{3a}{4}$  の両方に接する直線がちょうど 3 本となるような  $a$  の範囲を求めよ.

- 8 複素数平面上で複素数  $0, \sqrt{3}, \sqrt{3} + i$  を表す点をそれぞれ  $A_1, B_0, B_1$  とする. 正の整数  $n$  に対して, 点  $A_{n+1}$  は線分  $A_n B_n$  の中点とし, 点  $B_{n+1}$  は直線  $A_n B_n$  に関して点  $B_{n-1}$  の反対側にあり, 三角形  $A_{n+1} B_n B_{n+1}$  が三角形  $A_1 B_0 B_1$  と相似になるものとする. 点  $A_n$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) が表す複素数を  $z_n$  とする.

(1) 複素数  $z_3$  を求めよ.

(2) 複素数  $z_6$  を求めよ.

(3) 正の整数  $m$  に対して, 複素数  $z_{6m}$  の実部と虚部をそれぞれ求めよ.

9 正の整数  $n$  に対して,

$$a_n = \sum_{k=0}^n {}_n C_k, \quad b_n = \sum_{k=0}^n {}_n C_k k, \quad c_n = \sum_{k=0}^n \frac{{}_n C_k}{k+1}, \quad d_n = \sum_{k=0}^n {}_n C_k k^2$$

とする.

- (1)  $a_n$  を求めよ.
- (2)  $b_n$  を求めよ.
- (3)  $c_n$  を求めよ.
- (4)  $d_n$  を求めよ.
- (5) 極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n b_n}{c_n d_n}$  を求めよ.

10 有理数  $a, b$  に対して,  $(a + bi)^2$  の実部と虚部が整数ならば  $a, b$  は整数であることを証明せよ. ただし,  $i$  は虚数単位である.

11 定義域を  $0 \leq x \leq 1$  とする関数  $f_n(x)$  と  $f(x)$  を以下で定める.

$$f_1(x) = 0, \quad f_{n+1}(x) = \int_0^x (f_n(t) - 1)^2 dt \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

$$f(x) = \frac{x}{x+1}$$

- (1) 正の整数  $n$  に対して, 不等式

$$0 \leq f_n(x) \leq 1 \quad (0 \leq x \leq 1)$$

が成り立つことを証明せよ.

- (2) 正の整数  $n$  に対して, 不等式

$$(-1)^n f_n(x) \geq (-1)^n f(x) \quad (0 \leq x \leq 1)$$

が成り立つことを証明せよ.

- (3) 実数  $a$  ( $0 \leq a \leq 1$ ) に対して, 極限  $\lim_{n \rightarrow \infty} f_n(a)$  を求めよ.

## 解答例

1 (1) Aさんが1, 2, 2, 4の4枚を横一列に並べる数  $X$  の場合の総数は

$$\frac{4!}{1!2!1!} = 12 \text{ (通り)}$$

$X$  が4の倍数となるのは、下2桁が

$$\begin{aligned} \text{(i)} & \quad \square \square 1 2 \\ \text{(ii)} & \quad \square \square 2 4 \end{aligned}$$

となる場合である.

(i) のとき、残りの 2, 4 を並べる 2! 通り.

(ii) のとき、残りの 1, 2 を並べる 2! 通り.

よって、求める確率は  $\frac{2! + 2!}{12} = \frac{1}{3}$

(2) Bさんが2, 2, 3, 3の4枚を横一列に並べる数  $Y$  の場合の総数は

$$\frac{4!}{2!2!} = 6 \text{ (通り)}$$

$X < Y$  である場合について

- $X = 1 \square \square \square, 2 1 \square \square, 2 2 1 4$  のとき

これら  $X$  の並べ方は、それぞれ 3, 2, 1 通り.

$Y$  の並べ方はすべての場合の 6 通り. ゆえに

$$(3 + 2 + 1) \times 6 = 36 \text{ (通り)}$$

- $X = 2 2 4 1$  のとき

$Y$  は、 $Y = 2 2 3 3$  を除く、 $6 - 1 = 5$  (通り)

- $X = 2 4 \square \square$  のとき

$X$  の並べ方は 2 通り.  $Y = 3 \square \square \square$  である 3 通り. ゆえに

$$2 \times 3 = 6 \text{ (通り)}$$

よって、求める確率は  $\frac{36 + 5 + 6}{12 \times 6} = \frac{47}{72}$

- 2  $f(x) = x^3 - kx$  より  $f'(x) = 3x^2 - k$   
 $C: y = f(x)$  上の点  $P(a, f(a))$  における接線の  
 方程式は

$$y - (a^3 - ka) = (3a^2 - k)(x - a)$$

すなわち  $y = (3a^2 - k)x - 2a^3 \dots (*)$

これと曲線  $C: y = f(x)$  の共有点の  $x$  座標は

$$x^3 - ka = (3a^2 - k)x - 2a^3$$

整理すると  $(x - a)^2(x + 2a) = 0$  これを解くと  $x = a, -2a$

したがって、点  $P(a, f(a))$  における接線で  $P$  と異なる共有点の  $x$  座標は

$$-2a$$

これから、 $P(a, f(a))$  と異なる点  $(b, f(b))$  における接線が  $P$  を通るとき

$$-2b = a \quad \text{ゆえに} \quad b = -\frac{a}{2}$$

$f'(a) = 3a^2 - k$ ,  $f'(-\frac{a}{2}) = \frac{3}{4}a^2 - k$  より,  $f'(a) > f'(-\frac{a}{2})$ . (\*) から

$$l_1: y = (3a^2 - k)x - 2a^3$$

$l_2$  の方程式は,  $l_1$  の方程式の  $a$  を  $-\frac{a}{2}$  に置き換えたものであるから

$$l_2: y = \left(\frac{3}{4}a^2 - k\right)x + \frac{a^3}{4}$$

$Q_1(-2a, f(-2a))$ ,  $Q_2(-\frac{a}{2}, f(-\frac{a}{2}))$  であるから

$$Q_1(-2a, -8a^3 + 2ka), \quad Q_2\left(-\frac{a}{2}, -\frac{a^3}{8} + \frac{k}{2}a\right)$$

補足  $a > 0$  のとき, 右の図ようになる.

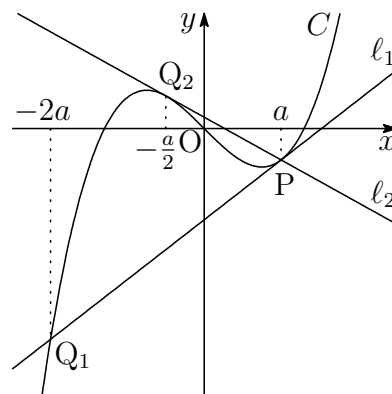
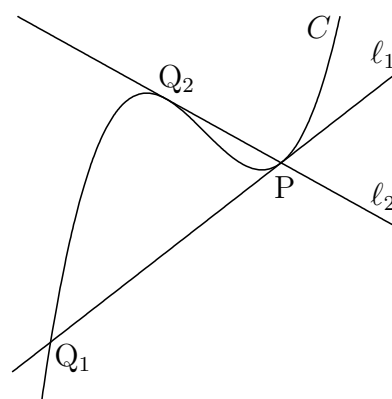
$Q_2, P, Q_1$  の  $x$  座標は, それぞれ

$$-\frac{a}{2}, a, -2a$$

であり, 公比  $-2$  の等比数列をなす. さらに,  $Q_1$  における接線の  $Q_1$  と異なる共有点の  $x$  座標は

$$4a$$

一般に, この規則は, 変曲点を基準に成立する.



3 (1) 四角形  $P_{n-1}P_nQ_nQ_{n-1}$  を  $S_n$  とおくと ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ).

$$S_1 : S_2 = P_0Q_0 : P_1Q_1 = 2 : \sqrt{2} \quad \text{ゆえに} \quad S_n : S_{n+1} = \sqrt{2} : 1$$

$S_{n+1}$  は  $S_n$  を  $\frac{\pi}{4}$  だけ回転して、辺  $P_nQ_n$  だけ共有している.

$\vec{p}_n = \overrightarrow{P_{n-1}P_n}$ ,  $\vec{q}_n = \overrightarrow{Q_{n-1}Q_n}$  とおくと ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ),  $Q_0Q_1 = \sqrt{2}$  より

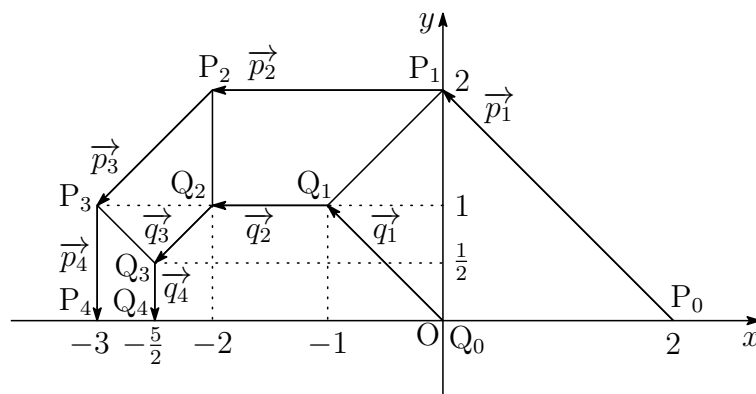
$$\begin{aligned} \vec{p}_n &= 2\vec{q}_n, \\ \vec{q}_n &= \frac{\sqrt{2}}{(\sqrt{2})^{n-1}} \left( \cos \frac{n+2}{4}\pi, \sin \frac{n+2}{4}\pi \right) \\ &= 2^{1-\frac{n}{2}} \left( -\sin \frac{n}{4}\pi, \cos \frac{n}{4}\pi \right), \\ \vec{q}_{n+4} &= -\frac{1}{4}\vec{q}_n, \quad \vec{p}_{n+4} = -\frac{1}{4}\vec{p}_n \end{aligned}$$

とくに  $\vec{q}_1 = (-1, 1)$ ,  $\vec{q}_2 = (-1, 0)$ ,  $\vec{q}_3 = \left(-\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}\right)$ ,  $\vec{q}_4 = \left(0, -\frac{1}{2}\right)$

したがって  $\overrightarrow{OQ_2} = \vec{q}_1 + \vec{q}_2 = (-2, 1)$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OP_2} &= \overrightarrow{OP_0} + \vec{p}_1 + \vec{p}_2 = (2, 0) + 2(\vec{q}_1 + \vec{q}_2) \\ &= (2, 0) + 2(-2, 1) = (-2, 2) \end{aligned}$$

よって  $P_2(-2, 2)$ ,  $Q_2(-2, 1)$



$$(2) \sum_{k=1}^4 \vec{q}_k = (-1, 1) + (-1, 0) + \left(-\frac{1}{2}, -\frac{1}{2}\right) + \left(0, -\frac{1}{2}\right) = \left(-\frac{5}{2}, 0\right) \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^4 \vec{p}_k &= 2 \sum_{k=1}^4 \vec{q}_k = (-5, 0), \\ \sum_{k=1}^8 \vec{p}_k &= \sum_{k=1}^4 (\vec{p}_k + \vec{p}_{k+4}) = \sum_{k=1}^4 \left(\vec{p}_k - \frac{1}{4}\vec{p}_k\right) \\ &= \frac{3}{4} \sum_{k=1}^4 \vec{p}_k = \frac{3}{4}(-5, 0) = \left(-\frac{15}{4}, 0\right) \end{aligned}$$

$$\text{したがって } \overrightarrow{OP}_4 = \overrightarrow{OP}_0 + \sum_{k=1}^4 \vec{p}_k = (2, 0) + (-5, 0) = (-3, 0)$$

$$\overrightarrow{OP}_8 = \overrightarrow{OP}_0 + \sum_{k=1}^8 \vec{p}_k = (2, 0) + \left(-\frac{15}{4}, 0\right) = \left(-\frac{7}{4}, 0\right)$$

$$\text{よって } \mathbf{P}_4(-3, 0), \quad \mathbf{P}_8\left(-\frac{7}{4}, 0\right)$$

$$(3) \vec{p}_{k+8} = -\frac{1}{4}\vec{p}_{k+4} = -\frac{1}{4}\left(-\frac{1}{4}\vec{p}_k\right) = \frac{1}{16}\vec{p}_k$$

$$\vec{s}_n = \sum_{k=8n-7}^{8n} \vec{p}_k \text{ とおくと } (n = 1, 2, \dots)$$

$$\vec{s}_1 = \left(-\frac{15}{4}, 0\right), \quad \vec{s}_{n+1} = \frac{1}{16}\vec{s}_n$$

$$\text{上の第2式より, } \vec{s}_n = \left(\frac{1}{16}\right)^{n-1} \vec{s}_1 \text{ であるから}$$

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{8m} \vec{p}_k &= \sum_{n=1}^m \vec{s}_n = \sum_{n=1}^m \left(\frac{1}{16}\right)^{n-1} \vec{s}_1 \\ &= \frac{1 - \left(\frac{1}{16}\right)^m}{1 - \frac{1}{16}} \left(-\frac{15}{4}, 0\right) = (4^{1-2m} - 4, 0) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって } \overrightarrow{OP}_{8m} &= \overrightarrow{OP}_0 + \sum_{k=1}^{8m} \vec{p}_k \\ &= (2, 0) + (4^{1-2m} - 4, 0) = (4^{1-2m} - 2, 0) \end{aligned}$$

$$\text{よって } \mathbf{P}_{8m}(4^{1-2m} - 2, 0)$$

4 不等式 (\*)  $(x^2 - 2x + y^2)(x^2 - 3x + y^2) \leq 0, \quad t \leq x \leq t+1$

の表す領域について

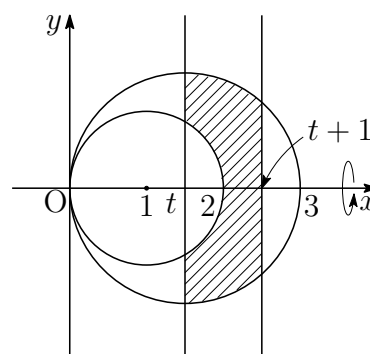
$$x^2 - 2x + y^2 = 0, \quad x^2 - 3x + y^2 = 0$$

をそれぞれ変形すると

$$(x-1)^2 + y^2 = 1, \quad \left(x - \frac{3}{2}\right)^2 + y^2 = \frac{9}{4}$$

したがって、不等式(\*)は

$$\begin{cases} x^2 - 2x + y^2 \geq 0 \\ x^2 - 3x + y^2 \leq 0 \\ t \leq x \leq t+1 \end{cases} \quad \text{ゆえに} \quad \begin{cases} 2x - x^2 \leq y^2 \leq 3x - x^2 \\ t \leq x \leq t+1 \end{cases}$$



$1 \leq t \leq 2$  のとき、不等式の表す領域は右の図の斜線部分で境界線を含む。

したがって、 $V(t)$  は

$$\begin{aligned} \frac{V(t)}{\pi} &= \int_t^{t+1} (3x - x^2) dx - \int_t^2 (2x - x^2) dx \\ &= \left[ \frac{3}{2}x^2 - \frac{1}{3}x^3 \right]_t^{t+1} - \left[ x^2 - \frac{1}{3}x^3 \right]_t^2 \\ &= -\frac{1}{3}t^3 + 2t - \frac{1}{6} \end{aligned}$$

$$\text{ゆえに } V(t) = \pi \left( -\frac{1}{3}t^3 + 2t - \frac{1}{6} \right), \quad V'(t) = \pi(-t^2 + 2)$$

$t$	1	...	$\sqrt{2}$	...	2
$V'(t)$		+	0	-	
$V(t)$		↗	極大	↘	

$$\text{よって 最大値 } V(\sqrt{2}) = \frac{8\sqrt{2} - 1}{6}\pi$$



- 5 (1)  $\angle ADB = 90^\circ$  より  $AB^2 = AD^2 + BD^2$   
これを条件式  $AB^2 + CD^2 = BC^2 + AD^2 = AC^2 + BD^2$  に代入すると

$$AD^2 + BD^2 + CD^2 = BC^2 + AD^2 = AC^2 + BD^2$$

$$\text{整理すると } BD^2 + CD^2 = BC^2, \quad AD^2 + CD^2 = AC^2$$

$$\text{したがって } \angle ADC = \angle BDC = 90^\circ \quad \text{よって } \angle BDC = 90^\circ$$

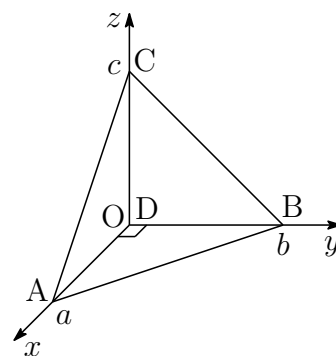
- (2) (1) の結果から

$$\angle ADB = \angle BDC = \angle CDA = 90^\circ$$

空間の点として, D を原点 O とし,  $A(a, 0, 0)$ ,  
 $B(0, b, 0)$ ,  $C(0, 0, c)$  とすると

$$AB^2 = a^2 + b^2, \quad DC^2 = OC^2 = c^2,$$

$$\sqrt{AB^2 + DC^2} = \sqrt{a^2 + b^2 + c^2}$$



$$\triangle ABC \text{ の重心 } G \text{ は } G\left(\frac{a}{3}, \frac{b}{3}, \frac{c}{3}\right)$$

$$DG = OG = \frac{1}{3}\sqrt{a^2 + b^2 + c^2}$$

$$\text{よって } \frac{\sqrt{AB^2 + DC^2}}{DG} = \frac{\sqrt{a^2 + b^2 + c^2}}{\frac{1}{3}\sqrt{a^2 + b^2 + c^2}} = \mathbf{3}$$

- 6 (1)  $k$  回目までに  $S_k$  が 3 の倍数でなく,  $S_k \equiv 1, S_k \equiv 2 \pmod{3}$  となる確率をそれぞれ  $x_k, y_k$  とすると

$$x_1 = \frac{2}{5}, \quad y_1 = \frac{2}{5}, \quad x_2 = \frac{1}{5}x_1 + \frac{2}{5}y_1 = \frac{6}{25}, \quad y_2 = \frac{2}{5}x_1 + \frac{1}{5}y_1 = \frac{6}{25}$$

$$\text{よって } p_2 = \frac{2}{5}x_1 + \frac{2}{5}y_1 = \frac{\mathbf{8}}{\mathbf{25}}, \quad p_3 = \frac{2}{5}x_2 + \frac{2}{5}y_2 = \frac{\mathbf{24}}{\mathbf{125}}$$

- (2)  $k$  回目までに  $S_k$  が 3 の倍数でなく,  $S_k \equiv 1, S_k \equiv 2 \pmod{3}$  となる確率をそれぞれ  $x_k, y_k$  とすると, 次の確率漸化式が成立する.

$$x_{k+1} = \frac{1}{5}x_k + \frac{2}{5}y_k, \quad y_{k+1} = \frac{2}{5}x_k + \frac{1}{5}y_k \quad (k = 1, 2, \dots)$$

上の 2 式から

$$(*) \quad x_{k+1} + y_{k+1} = \frac{3}{5}(x_k + y_k), \quad x_{k+1} - y_{k+1} = -\frac{1}{5}(x_k - y_k)$$

$x_1 = \frac{2}{5}, y_1 = \frac{2}{5}$  であるから

$$\begin{aligned} x_k + y_k &= (x_1 + y_1) \left(\frac{3}{5}\right)^{k-1} = \frac{4}{5} \left(\frac{3}{5}\right)^{k-1} \\ x_k - y_k &= (x_1 - y_1) \left(-\frac{1}{5}\right)^{k-1} = 0 \end{aligned}$$

$n \geq 2$  のとき, 求める確率は

$$p_n = \frac{2}{5}x_{n-1} + \frac{2}{5}y_{n-1} = \frac{2}{5}(x_{n-1} + y_{n-1}) = \frac{8}{25} \left(\frac{3}{5}\right)^{n-2}$$

- (3)  $S_1, S_2, S_3$  が 3 の倍数でなく,  $a_3 = 5$  のとき,  $S_3 \equiv 1 \pmod{3}$  であるから

$$x_3 = \frac{1}{5}y_2 = \frac{1}{5} \cdot \frac{6}{25} = \frac{6}{125}, \quad y_3 = 0$$

これらの初期値について,  $(*)$  を解くと ( $k \geq 3$ )

$$x_k + y_k = x_3 \left(\frac{3}{5}\right)^{k-3}, \quad x_k - y_k = x_3 \left(-\frac{1}{5}\right)^{k-3}$$

$a_3 = 5$  となる事象を  $A$ ,  $n$  回目までに  $S_n$  が 3 の倍数でなく,  $n$  回目に初めて  $S_n$  が 3 の倍数になる事象を  $B$  とすると ( $n \geq 4$ )

$$\begin{aligned} P(A) &= x_3, \\ P(A \cap B) &= \frac{2}{5}x_{n-1} + \frac{2}{5}y_{n-1} \\ &= \frac{2}{5}(x_{n-1} + y_{n-1}) = \frac{2}{5}x_3 \left(\frac{3}{5}\right)^{n-4} \end{aligned}$$

求める条件付き確率は  $q_n = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{2}{5} \left(\frac{3}{5}\right)^{n-4}$

- 7 2つの放物線  $y = x^2$ ,  $x = \frac{1}{2a}y^2 + \frac{3a}{4}$  の軸はそれぞれ,  $y$  軸,  $x$  軸であるから, 両方に接する直線は,  $x$  軸および  $y$  軸に平行ではない.

$$y = x^2 \text{ を微分すると } y' = 2x$$

曲線  $y = x^2$  上の点  $(t, t^2)$  における接線の方程式は ( $t \neq 0$ )

$$y - t^2 = 2t(x - t) \quad \text{すなわち} \quad x = \frac{1}{2t}y + \frac{t}{2}$$

これと  $x = \frac{1}{2a}y^2 + \frac{3a}{4}$  から  $x$  を消去すると

$$\frac{1}{2t}y + \frac{t}{2} = \frac{1}{2a}y^2 + \frac{3a}{4} \quad \text{整理すると} \quad ty^2 - ay + \frac{3a^2t}{2} - at^2 = 0$$

$y$  に関する2次方程式は重解を持つから, 係数について

$$(-a)^2 - 4t \left( \frac{3a^2t}{2} - at^2 \right) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad a(4t^3 - 6at^2 + a) = 0$$

$a \neq 0$  であるから, 3次方程式  $4t^3 - 6at^2 + a = 0$  が異なる3つの実数解をもつ  $a$  の値の範囲を求める.  $f(t) = 4t^3 - 6at^2 + a$  とすると

$$f'(t) = 12t^2 - 12at = 12t(t - a)$$

3次方程式  $f(t) = 0$  が異なる3つの実数解をもつとき,  $f(0)f(a) < 0$  より

$$a(-2a^3 + a) < 0 \quad \text{ゆえに} \quad a^2(2a^2 - 1) > 0$$

よって, 求める  $a$  の値の範囲は  $a < -\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{1}{\sqrt{2}} < a$

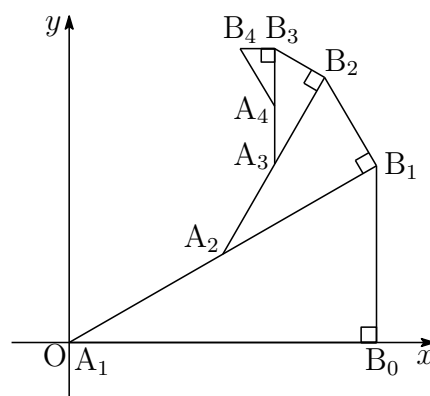
- 8 (1)  $w = \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6}$  とすると

$$z_2 - z_1 = w = \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i,$$

$$\begin{aligned} z_3 - z_2 &= \frac{w}{\sqrt{3}}(z_2 - z_1) = \frac{w}{\sqrt{3}}w = \frac{w^2}{\sqrt{3}} \\ &= \frac{1}{\sqrt{3}} \left( \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right) = \frac{\sqrt{3}}{6} + \frac{1}{2}i \end{aligned}$$

$z_1 = 0$  であるから, 上の2式より

$$z_3 = (z_2 - z_1) + (z_3 - z_2) = \left( \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) + \left( \frac{\sqrt{3}}{6} + \frac{1}{2}i \right) = \frac{2\sqrt{3}}{3} + i$$



(2)  $z_{n+2} - z_{n+1} = \frac{w}{\sqrt{3}}(z_{n+1} - z_n)$  であるから ( $n$  は自然数)

$$n \geq 2 \text{ のとき} \quad \prod_{k=1}^{n-1} \frac{z_{k+2} - z_{k+1}}{z_{k+1} - z_k} = \prod_{k=1}^{n-1} \frac{w}{\sqrt{3}}$$

$$\text{すなわち} \quad z_{n+1} - z_n = w \left( \frac{w}{\sqrt{3}} \right)^{n-1}$$

$$\sum_{k=1}^{n-1} (z_{k+1} - z_k) = w \sum_{k=1}^{n-1} \left( \frac{w}{\sqrt{3}} \right)^{k-1}$$

$$z_n = \frac{w}{1 - \frac{w}{\sqrt{3}}} \left\{ 1 - \left( \frac{w}{\sqrt{3}} \right)^{n-1} \right\} \quad \dots (*)$$

(\*) は,  $n = 1$  のときも成立する. ここで,  $w + \bar{w} = \sqrt{3}$ ,  $w\bar{w} = 1$  より

$$w^2 - \sqrt{3}w + 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{1}{1 - \frac{w}{\sqrt{3}}} = \sqrt{3}w$$

$$\text{上の第2式より} \quad z_n = \sqrt{3}w^2 - 3w \left( \frac{w}{\sqrt{3}} \right)^n \quad \dots (**)$$

$n = 6$  を (\*\*) に代入すると,  $w = \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6}$  より

$$\sqrt{3}w^2 = \sqrt{3} \left( \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right) = \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i,$$

$$3w = 3 \left( \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) = 3 \left( \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right),$$

$$\left( \frac{w}{\sqrt{3}} \right)^6 = \frac{\cos \pi + i \sin \pi}{27} = -\frac{1}{27}$$

$$\text{よって} \quad z_6 = \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i - 3 \left( \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) \left( \frac{-1}{27} \right) = \frac{5}{9}\sqrt{3} + \frac{14}{9}i$$

(3) (\*\*) に  $n = 6m$  を代入すると, (2) の結果により

$$\begin{aligned} z_{6m} &= \sqrt{3}w^2 - 3w \left\{ \left( \frac{w}{\sqrt{3}} \right)^6 \right\}^m = \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{3}{2}i - 3 \left( \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) \left( \frac{-1}{27} \right)^m \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \left\{ 1 - 3 \left( -\frac{1}{27} \right)^m \right\} + \frac{3}{2} \left\{ 1 - \left( -\frac{1}{27} \right)^m \right\} i \end{aligned}$$

$$\text{よって} \quad \operatorname{Re}(z_{6m}) = \frac{\sqrt{3}}{2} \left\{ 1 - 3 \left( -\frac{1}{27} \right)^m \right\}, \quad \operatorname{Im}(z_{6m}) = \frac{3}{2} \left\{ 1 - \left( -\frac{1}{27} \right)^m \right\}$$

9 (1)  $f(x) = (x+1)^n = \sum_{k=0}^n {}_n C_k x^k$  とおくと

$$f(1) = 2^n = \sum_{k=0}^n {}_n C_k \quad \text{よって} \quad \mathbf{a_n = 2^n}$$

(2)  $f'(x) = n(x+1)^{n-1} = \sum_{k=1}^n {}_n C_k k x^{k-1}$  より

$$f'(1) = n \cdot 2^{n-1} = \sum_{k=1}^n {}_n C_k k \quad \text{よって} \quad \mathbf{b_n = n \cdot 2^{n-1}}$$

(3)  $\int_0^1 f(x) dx = \left[ \frac{(x+1)^{n+1}}{n+1} \right]_0^1 = \sum_{k=0}^n \left[ \frac{{}_n C_k}{k+1} x^{k+1} \right]_0^1$  より

$$\frac{2^{n+1} - 1}{n+1} = \sum_{k=0}^n \frac{{}_n C_k}{k+1} \quad \text{よって} \quad \mathbf{c_n = \frac{2^{n+1} - 1}{n+1}}$$

(4)  $f''(x) = n(n-1)(x+1)^{n-2} = \sum_{k=0}^n {}_n C_k k(k-1)x^{k-2}$  より

$$f''(1) = n(n-1) \cdot 2^{n-2} = \sum_{k=0}^n {}_n C_k k(k-1)$$

上式および (2) の結果から

$$\begin{aligned} d_n &= \sum_{k=0}^n {}_n C_k k^2 = \sum_{k=0}^n {}_n C_k k(k-1) + \sum_{k=0}^n {}_n C_k k \\ &= n(n-1) \cdot 2^{n-2} + n \cdot 2^{n-1} = \mathbf{n(n+1) \cdot 2^{n-2}} \end{aligned}$$

(5) (1)~(4) の結果から

$$\frac{a_n b_n}{c_n d_n} = 2^n \times n \cdot 2^{n-1} \times \frac{n+1}{2^{n+1} - 1} \times \frac{1}{n(n+1) \cdot 2^{n-2}} = \frac{2^{n+1}}{2^{n+1} - 1}$$

$$\text{よって} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a_n b_n}{c_n d_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{2^{n+1}}{2^{n+1} - 1} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{1 - 2^{-n-1}} = \mathbf{1}$$

**10**  $(a+bi)^2 = a^2 - b^2 + 2abi$  より ( $a, b$  は有理数),  $a^2 - b^2$  と  $2ab$  が整数ならば,  $a, b$  は整数であることを証明すればよい.  $a \neq 0$  のとき  $a = \frac{p}{q}$  (整数  $p, q > 0$  は互いに素),  $b \neq 0$  のとき  $b = \frac{r}{s}$  (整数  $r, s > 0$  は互いに素) とする.

(i)  $a = 0$  のとき,  $-b^2 = -\frac{r^2}{s^2}$  が整数であるとき,  $s^2 = 1$  より  $b = \pm r$   
ゆえに,  $a, b$  はともに整数である.

(ii)  $b = 0$  のとき,  $a^2 = \frac{p^2}{q^2}$  が整数であるとき,  $q^2 = 1$  より  $a = \pm p$   
ゆえに,  $a, b$  はともに整数である.

(iii)  $ab \neq 0$  のとき,  $a^2 - b^2 = M, 2ab = N$  とおくと ( $M, N$  は整数)

$$\frac{p^2}{q^2} - \frac{r^2}{s^2} = M \quad \cdots (*), \quad \frac{2pr}{qs} = N \quad \cdots (**)$$

$$(*) \text{ より } \frac{p^2 s^2}{q^2} = r^2 + s^2 M \quad \cdots \textcircled{1}, \quad \frac{q^2 r^2}{s^2} = p^2 - q^2 M \quad \cdots \textcircled{2}$$

①の右辺は整数で,  $p, q$  が互いに素であるから,  $s^2$  は  $q^2$  で割り切れる.

②の右辺は整数で,  $r, s$  が互いに素であるから,  $q^2$  は  $s^2$  で割り切れる.  
したがって  $q^2 = s^2$  すなわち  $q = s$  これを  $(**)$  に代入して

$$\frac{2pr}{q^2} = N$$

上式の右辺は整数で,  $p, q$  および  $r, s (= q)$  は互いに素であるから

$$q^2 = 1 \quad \text{ゆえに} \quad q = s = 1 \quad \text{すなわち} \quad a = p, b = r$$

よって,  $a, b$  は整数である.

(i)~(iii) より, 題意は成立する.

**11** (1) 定義域を  $0 \leq x \leq 1$  とする関数

$$f_1(x) = 0, \quad f_{n+1}(x) = \int_0^x (f_n(t) - 1)^2 dt \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

$$f(x) = \frac{x}{x+1}$$

は, 正の整数  $n$  に対して

$$0 \leq f_n(x) \leq 1 \quad (0 \leq x \leq 1) \quad (*)$$

であることを数学的帰納法により証明する.

[1]  $n = 1$  のとき,  $f_1(x) = 0$  であるから,  $(*)$  は成立する.

[2]  $n = k$  のとき,  $(*)$  が成立すると仮定すると,  $0 \leq x \leq 1$  において

$$0 \leq f_k(x) \leq 1 \quad \text{ゆえに} \quad 0 \leq (f_k(x) - 1)^2 \leq 1$$

$$0 \leq x \leq 1 \text{ において} \quad 0 \leq \int_0^x (f_k(t) - 1)^2 dt \leq \int_0^x dt$$

$$\text{したがって} \quad 0 \leq f_{k+1}(x) \leq x \quad \text{ゆえに} \quad 0 \leq f_{k+1}(x) \leq 1$$

よって,  $n = k + 1$  のときも,  $(*)$  が成立する.

[1], [2] より, すべての自然数  $n$  について,  $(*)$  が成立する.

(2) 定義域を  $0 \leq x \leq 1$  とする関数

$$g_n(x) = (-1)^n (f_n(x) - f(x))$$

を定義すると,  $g_n(x)$  は正の整数  $n$  に対して

$$g_n(x) \geq 0 \quad (**)$$

であることを数学的帰納法により証明する.

[1]  $n = 1$  のとき,  $f_1(x) = 0$ ,  $f(x) = \frac{x}{x+1}$  より

$$g_1(x) = -1 \left( 0 - \frac{x}{x+1} \right) = \frac{x}{x+1} \geq 0$$

[2]  $n = k$  のとき,  $g_k(x) \geq 0$  であると仮定すると, (1) の結果に注意して

$$\begin{aligned} g'_{k+1}(x) &= (-1)^{k+1} (f'_{k+1}(x) - f'(x)) \\ &= (-1)^{k+1} \left\{ (f_k(x) - 1)^2 - \frac{1}{(x+1)^2} \right\} \\ &= (-1)^{k+1} \left( f_k(x) - 1 + \frac{1}{x+1} \right) \left( f_k(x) - 1 - \frac{1}{x+1} \right) \\ &= (-1)^k (f_k(x) - f(x)) \left( 1 - f_k(x) + \frac{1}{x+1} \right) \\ &= g_k(x) \left( 1 - f_k(x) + \frac{1}{x+1} \right) \geq 0 \quad (***) \end{aligned}$$

[1], [2] より, すべての自然数  $n$  について, (\*\*) が成立する.  
したがって, 正の整数  $n$  に対して

$$(-1)^n (f_n(x) - f(x)) \geq 0 \quad \text{よって} \quad (-1)^n f_n(x) \geq (-1)^n f(x)$$



(3)  $0 \leq x \leq 1$  において,  $g_1(x) = \frac{x}{x+1}$  および (\*\*\*) より

$$0 \leq g_1(x) \leq x, \quad 0 \leq g'_{k+1}(x) \leq 2g_k(x)$$

自然数  $n$  について

$$0 \leq g_n(x) \leq \frac{2^{n-1}}{n!} x^n \quad (\text{A})$$

が成立することを数学的帰納法により証明する.

[1]  $n = 1$  のとき,  $0 \leq g_1(x) \leq x$  より, (A) は成立する.

[2]  $n = k$  のとき, (A) が成立すると仮定すると

$$0 \leq g'_{k+1}(x) \leq 2g_k(x) \leq \frac{2^n}{n!} x^n$$

$f_n(0) = 0, f(0) = 0$  であるから  $g_n(0) = 0$  ( $n$  は自然数)

$$0 \leq \int_0^x g'_{k+1}(t) dt \leq \int_0^x \frac{2^k}{k!} t^k dt$$

$$\text{ゆえに} \quad 0 \leq g_{k+1}(x) \leq \frac{2^k}{(k+1)!} x^{k+1}$$

したがって,  $n = k + 1$  のときも (A) は成立する.

[1], [2] より, すべての自然数  $n$  について, (A) は成立する.

(A) より,  $n \geq 3$  のとき

$$g_n(a) = \frac{2^{n-1}}{n!} a^n = \frac{a}{1} \cdot \frac{2a}{2} \cdot \frac{2a}{3} \cdots \frac{2a}{n} \leq a^2 \left( \frac{2a}{3} \right)^{n-2}$$

$0 \leq a \leq 1$  より,  $0 \leq \frac{2a}{3} \leq \frac{2}{3}$  であるから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} g_n(a) = 0$$

$g_n(a) = (-1)^n (f_n(a) - f(a))$  であるから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \{f_n(a) - f(a)\} = 0 \quad \text{よって} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} f_n(a) = f(a) = \frac{a}{a+1}$$